愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2022年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	総合演習 I		
担当者(Instructors)	白井 克尚	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

社会生活の前提となるのは、豊かな問題意識をもち、その問題を解決するための基本的な考え方や方法を習得していることである。基礎演習 I・II で培ったリテラシーを基礎に、問題解決のためのリテラシーを、身近な問題をテーマとして活用しながら体系的、実践的に学ぶ。基本的な知識を得る合同ゼミと知識を活用するゼミ活動を組み合わせて実施する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	PBLの授業手法を取り入れて、チームで専門に関連する課題を設定し、解決する。その成果を学園祭などの機会を設けて報告する。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	授業のオリエンテーション-集団における人間関係づくりとは-	授業のオリエンテーションとして、集団における人間関係づくりについて考える。	☐
第2回	参加型体験学習の理論と方法	参加型体験学習の理論と方法について理解する。	☐
第3回	挨拶ゲーム	アクティビティ「挨拶ゲーム」を行う。	☐
第4回	どう呼ぶ? 友だちの名前	アクティビティ「どう呼ぶ? 友だちの名前」を行う。	☐
第5回	嫌だったこと	アクティビティ「嫌だったこと」を行う。	☐
第6回	うれしい言葉 傷つく言葉	アクティビティ「うれしい言葉 傷つく言葉」を行う。	☐
第7回	あなたは聴き上手?	アクティビティ「あなたは聴き上手?」を行う。	☐
第8回	魔法のことば	アクティビティ「魔法のことば」を行う。	☐
第9回	対立から学ぶ	アクティビティ「対立から学ぶ」を行う。	☐
第10回	劇団うりんこと連携したワークショップの実施	劇団うりんこと連携した人間関係づくりのワークショップを実施する。	☐
第11回	問題の解決のために	アクティビティ「問題の解決のために」を行う。	☐
第12回	わたしメッセージを伝えよう	アクティビティ「わたしメッセージを伝えよう」を行う。	☐
第13回	励まし名人	アクティビティ「励まし名人」を行う。	☐
第14回	とっておきの言葉	アクティビティ「ラストシーンはこうでなくっちゃ」を行う。	☐
第15回	授業のまとめ-参加型体験学習を振り返って-	授業のまとめとして、参加型体験学習の意義について考える。	☐

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

事前学習として、次回の授業を理解するために、毎回指示するテーマや課題を予め調べておく(2時間程度)。事後学習として、授業で扱ったテーマや課題について関連資料を参照しながら復習する(2時間程度)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出された授業の振り返りは、翌週フィードバックし、全体で共有する機会を持つ。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
--------------	-------------------	-----------------

知識・技能	◇ 2019全学共通DP1	教師・保育者として必要なコミュニケーション力について理解し、相手を意識して分かりやすく表現することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019全学共通DP2	自らの考えについて、コミュニケーションスキルを駆使しながら、保育、教育の現場で自在に表現することができる。
主体性	◆ 2019全学共通DP3	さまざまな教育現場での課題に対して主体的になって向き合い、収集した情報を基に発表資料を作成し、相手にわかりやすい発表をすることができる。

■成績評価 (Evaluation method)				
筆記試験 (Written exam)	実技試験 (Practical exam)	レポート試験 (Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他 (Other)
			60%	40%
授業内試験等(具体的内容) (Specific contents) 毎回の授業を通しての振り返りを行い、教師・保育士にとって、必要な思考力・表現力・判断力が身についたかを評価する。				

■テキスト (Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	授業の中で、適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書 (references books)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	國分康孝・國分久子総編集『構成的グループエンカウンター事典』図書文化, 2004年	
2		
3		
4		
5		